

## 平成27年度 自己評価

- 「保育者のための自己評価チェックリスト保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために」を活用し、自己評価を実施した。

### 内 容

#### 第1章 総則

1. 教育及び保育の基本と目標 13項目
2. 特に配慮すべき事項
  - (1) 教育及び保育の配慮 14項目
  - (2) 健康支援 20項目
  - (3) 食育 11項目
  - (4) 特別支援・障害児教育 9項目

#### 第2章 子どもの発達 14項目

#### 第3章 「ねらい」及び「内容」

1. 保育内容「健康」 22項目
2. 保育内容「人間関係」 22項目
3. 保育内容「環境」 22項目
4. 保育内容「言葉」 22項目
5. 保育内容「表現」 22項目

#### 第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項

1. 乳児期の保育に関する配慮事項  
28項目
2. 満1歳児以上～満3歳児未満児の保育に関する配慮事項  
12項目

#### 第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項

30項目

#### 第6章 研修と自己評価 15項目

#### 第7章 子育て支援 17項目

以上 293項目を5ヶ月間に分け実施した。

### 結 果

#### 1. 教育及び保育の基本と目標について

13項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 10項目 「いいえ」と回答した項目数 3項目
・ 保育指針について、告示があった時点での勉強会を実施しており創意工夫の保育に取り組むなどの主旨を十分理解し保育に取り組んでいる。 ・ 保育所の法令の理解については全職員が「いいえ」と回答しており勉強不足な面が顕著であった。また、保育環境設定についての説明や個々人の環境設定ができていないか等の主旨の設問に対して自信がもてないという回答になった。
<b>改善点・今後の取り組み</b> ・ 保育士個々が、保育所法令について学び保育所内勉強会の機会に学べるよう設定して行く。また、計画的に保育環境を整え保育計画に取り入れて取り組みたい。

## 2. 特に配慮すべき事項

### (1) 教育及び保育の配慮について

14項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 8項目 「いいえ」と回答した項目数 6項目
<ul style="list-style-type: none"><li>「まってて」「あとで」を言わずその場で対応できているか?についてはなるべく言わずに対応できるようにしたいが、できていないと改めて痛感したと感じた保育士がいた。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>子ども中心の保育という原点に戻り、今求めていることやらなければならないことを見極め取り組みたい。</li></ul>

### (2) 健康支援について

20項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 12項目 「いいえ」と回答した項目数 8項目
<ul style="list-style-type: none"><li>毎月の身体測定の実施。感染予防の徹底に取り組んでいる。</li><li>子ども直接に対しての健康支援に努めているが、毎日の温度、湿度の点検をしても記録として残すことに欠けていた。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>温度、湿度の点検を記録に残し、その都度換気等に配慮して行く。</li></ul>

### (3) 食育について

11項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 9項目 「いいえ」と回答した項目数 2項目
<ul style="list-style-type: none"><li>毎月給食会議を開催し問題の改善に取り組んでいる。</li><li>子どもたちと栽培収穫したものを調理して食べているか?の設問に対して全保育士が「いいえ」との回答となったが、放射線量の関係上の回答である。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>子どもたちが自ら栽培し収穫したものを食べることができないのが残念である。しかし、成育状況や育てることの喜びそして観察することで匂いや感触、色などを実際体験できるよう心かけた。</li></ul>

### (4) 特別支援教育・障害児教育について

9項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 1項目 「いいえ」と回答した項目数 8項目
<ul style="list-style-type: none"><li>保育所内で、気になる子が入所した場合。入所時のアセスメントから関わりを検証し、入所当日よりケース会議を開催して関わり方を話し合い保育士間の共有の下保育に取り組んだ。</li><li>特別支援及び障害児についての専門知識を得ていないという自信が持てないことから、保護者へ助言をすることに対しての戸惑いから「いいえ」との回答が多い項目となった。関係機関との連携をとり支援を繋ぐ努力は行った。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>障害児支援の研修への積極的な参加をする。</li><li>保育士個々人が、書籍等で学習するなど努める。</li><li>職員会議時に、障害児についての項目を取り上げ、勉強会を実施して行く。</li></ul>

## 第2章 子どもの発達について

14項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 10項目 「いいえ」と回答した項目数 4項目
<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの発達に沿った保育に取り組み、個々人の発達に合わせた関わりや環境作りができていた。</li><li>・「いいえ」の回答については、保育にやや自信がないという回答であった。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・個々の発達にに応じて、職員会議時にケース検討を実施して取り組むことに努め、保育士が共有した情報の下確認しながら保育ができた。</li><li>・保護者に対して、気になるこの発達についての内容を伝達するに当たってはかなり慎重にならなければならないことから、しっかりした根拠や専門機関とからの指示に基づいて行わなければならないということから、「いいえ」の回答項目が多いという結果になった。</li></ul>

## 第3章 「ねらい」及び「内容」

### 1. 保育内容「健康」について

22項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 10項目 「いいえ」と回答した項目数 12項目
<ul style="list-style-type: none"><li>・避難にて、仮設の施設での保育から、限られたスペースと戸外遊びに範囲の制限がある中での保育にできる限りの保育に取り組んだ。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・避難訓練を毎月実施している中で、身を守る大切さを毎回伝えている。その為には保育者の話をよく聞くことの大切さを知らせている。</li><li>・毎日の保育の中で、手洗いやうがいの習慣を身に付け、感染症の予防に努めた。</li><li>・危険な個所や行為をその都度知らせ、「安全点検」「備品点検」を定期的に行っている。</li><li>・「ヒヤリハット」の記録をし、大きな事故につながることをないよう努めた。</li></ul>

### 2 保育内容「人間関係」について

22項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 10項目 「いいえ」と回答した項目数 12項目
<ul style="list-style-type: none"><li>・0歳児～2歳児までの「未満児」のみの保育から、人間関係を構築する保育を工夫しながら取り組んだ。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・少人数だからこそできる保育を模索して、手を出しすぎない保育にも心かけ、子ども同士の関わりを大切に作る保育にも取り組んだ。</li><li>・人間関係の決まりやルールを年齢に合わせ、分かりやすく説明し遊びを通して知らせて行った。</li><li>・行事を通して、他児との接し方を知らせ。毎日の挨拶からコミュニケーションの大切さを身に付けられるよう努めた。</li><li>・避難しての保育から、地域との関わりなどが困難だった。</li></ul>

### 3. 保育内容「環境」について

22 項目の設問のうち「は い」と回答した項目数 3 項目 「いいえ」と回答した項目数 19 項目
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 原発事故により、放射能の心配から自然環境を十分に活用した保育に取り組めないことで苦慮している。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 実写の絵本や紙芝居を活用して、できる限り本物の昆虫や植物を知ることができるよう努めた。</li><li>・ プラントんに野菜を植え、育てることや野菜の育成を観察し収穫することで五感が養えられるような保育に取り組んだ。</li><li>・ 飯舘村から離れ、家族も離散し核家族となり、季節の行事や地域の行事等に参加する機会がなくなり、様々な体験ができないことで地域密着の生活に乏しくなった。季節感ある催しや食事などの体験ができなくなってしまったのは残念なことだと痛感している。</li></ul>

### 4. 保育内容「言葉」について

22 項目の設問のうち「は い」と回答した項目数 16 項目 「いいえ」と回答した項目数 6 項目
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 言葉の発達に一番大切な時期の保育から、言葉が発することができるような保育に心かけ、個々の発達に応じた関わりをケース会議を行いながら取り組んだ。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもが興味がある物を知り、言葉に繋がるよう個々に合わせた関わりに努めた。</li><li>・ 絵本や歌から言葉を引き出せるよう取り組んだ。</li></ul>

### 5. 保育内容「表現」について

22 項目の設問のうち「は い」と回答した項目数 3 項目 「いいえ」と回答した項目数 19 項目
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 低年齢から、劇遊びや歌の意味の説明という設問に対する回答が「いいえ」になり、「いいえ」の回答数が多くなった。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 歌や手遊びを通して表現力を養えるよう努めた。</li><li>・ リズム遊びから全身をつかって表現できるよう努めた。</li></ul>

## 4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項

### 1. 乳児期の保育に関する配慮事項

28 項目の設問のうち「は い」と回答した項目数 27 項目 「いいえ」と回答した項目数 1 項目
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 少人数保育にて、ひとり一人に寄り添い「個別計画」を毎月立てて保育に取り組んでいる。</li></ul>
<b>改善点・今後の取り組みと評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもの気持ちに寄り添い、受容した関わりに努めた。</li><li>・ 喃語に応答し安心できる環境に常に努めた。</li><li>・ 保護者との連絡を密にし、家庭と保育所が連続した保育ができるよう努めた。</li></ul>

## 5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項について

30項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 21項目

「いいえ」と回答した項目数 9項目

- ・ 入所時4月、10月の年2回個別に「アセスメント」を実施し、個別計画を毎月作成し評価をしている。
- ・ 毎週保育の反省を行い次週の保育に取り組んでいる。
- ・ 毎月の保育計画を立て保育に取り組み、月末には反省を行い次月に取り組んでいる。
- ・ 個別計画から年間計画まで立案して保育に取り組んでいる。

### 改善点・今後の取り組みと評価

- ・ 個々の個別計画を、保護者の保育に対する思いを取り入れながら立案し保育に取り組めた。
- ・ 毎日の保育内容を細かく記録し個別経過記録に残し、成育の連続した保育に取り組んでいる。
- ・ 指導計画を毎月見直し、保育士全員が共有して保育に取り組んでいる。

## 6 研修と自己評価

15項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 5項目

「いいえ」と回答した項目数 10項目

- ・ 保育士専門書を保育所に常備して保育士が閲覧できる環境に努めた。

### 改善点・今後の取り組みと評価

- ・ 15項目の設問中10項目が「いいえ」の回答については、もう少し自己研鑽をするための機会をもちたいということからの回答から多くなったと思われる。
- ・ 自己評価は、毎年同じ物を使用せず実施していくよう努めている。
- ・ 自己評価から改善点を検証し、直ぐに改善できるものは取り組んだ。

## 第7章 子育て支援について

17項目の設問のうち「はい」と回答した項目数 7項目

「いいえ」と回答した項目数 10項目

- ・ 避難しての保育から、地域の子育て相談や地域開放ができないことで「いいえ」の回答があった。

### 改善点・今後の取り組みと評価

- ・ 保育所利用者の保護者に対しては、常に耳を傾け相談を受け支援した。

## まとめ

- ・ 今回は5ヶ月間にわたり、自己評価を実施した。  
毎月、保育士個人が自己評価から気づいたこと、改善しなければならないことに気づき改善して行くことを目的としている旨を伝え実施した。  
今回の評価から、「環境の設定」「特別支援教育・障害児教育」保育の「表現」の項目についての評価が弱いことが顕著となった。  
未満児保育から保育設定ができにくい内容のものもあるが、なぜできないのか？どうすれば良いかを話し合うことができた。  
今後も毎日の保育を見直しながら、より良い保育業務を行っていきたい。